

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

3日目【2000年4月16日】

秦の始皇帝は凄い〈西安〉前半

今日は西安の東方面の観光に行った。中国国営の旅行会社のツアーに参加し、20名くらいの団体と一緒にだった。日本人は私を入れて三人だけ。欧米人が殆どで、観光ガイドも英語。

観光ガイドが色々説明をされていたが、中国語なのか英語なのか、さっぱり聞き取れなかった。さすがに、各観光地からの出発時間だけは、私の方から聞いて、再度確認したので、乗り遅れることはなかった。

最初は大雁塔へ行った。ここは玄奘がインドから持ち帰った、大量のサンスクリット語経典や仏像等を保存するため、652年に建立された歴史的建造物。石で造られ、七層、高さ64メートルもあり、まさに西安のシンボルとも言うべき建物である。

この大雁塔がある慈恩寺は、16年間にわたる苦難の西域大旅行を終えて帰国した玄奘が、その後、半生をかけて日夜経典の翻訳にたずさわった場所である。境内一帯はお香の良い香りが漂っていた。



慈恩寺



慈恩寺本堂



大雁塔

住職レター

九月に入ってから最も厳しい猛暑が続き、寝苦しい夜が続きました。寝苦しさの原因は、暑さのせいだけではなく、カープの不甲斐なさにもあるのでしょうか。一時期は、日本シリーズまで考えてしまい、カープ・ドラゴンフライズ(バスケット)・サンフレッチェ(サッカー)三団体同時に優勝パレードのことまで、夢に描いておりました。来年こそ、正夢になりますよう、今から祈っておきます。

さて、先日(九月四日)、東広島組(東広島市の浄土真宗寺院連盟)の寺族研修会が、カープの本拠地、マツダスタジアムにて開催されました。

野球場で本当に研修されたの?と思われるでしょうが、選手を支える裏方の大切さを学び、マツダスタジアムのベンチに座って、選手と同じ



新井監督のパネル下にて撮影
(マツダスタジアム内)

目線を体験し、選手ロッカールームにまで入らせて貰いました。たくさんの方の法話ネタを仕入れて参りましたよ。読経後の法話で退屈そうにされてい

ましたら、カープネタを入れた法話を、一発かましますね。

屋内練習場も見学させてもらい、実際に塁間を走ってみました。

1塁ベースと2塁ベースの遠いこと。こんな距離を、あつという間に盗塁するのは、さすがプロ野球選手。

今回の寺族研修会を通じて、私たちは、僧侶のプロフェッショナルとして、さすがプロ僧侶と思つて貰えるよう、僧侶道を邁進しな



スライリーと撮影(3塁側ベンチ前)

Buddhist ruins exploration record at silk road
シルクロード仏教遺跡探訪記

3日目【2000年4月16日】 秦の始皇帝は凄い〈西安〉後半

全37日間

昼から、兵馬俑で名高い秦俑博物館に行った。以前から兵馬俑は、実際に自分の目で見てみたいと思っていた。ここは1974年に井戸を掘っていた農民によって、たまたま発見されたとのこと。

俑とは、中国初代皇帝である秦の始皇帝の陵墓を守る陪葬物として作られた、兵士や馬の焼き物人形のことである。ここは広いドームで覆われ、写真では大きさまでは伝わり難いが、兵士像は平均身長178センチと等身大で、顔の表情も一体ずつ微妙に異なった作りとのこと。

この兵馬俑は、異様な雰囲気であった。今でも、覇気のような不気味なオーラが伝わってくる。6000体もの兵馬俑、ただただ圧倒された。これだけでも、秦の始皇帝、ただ者ではなかったことが伝わってきた。現代人からは想像を絶する権力を有していたのだろう。



掘削中の兵馬俑



修復を終えた兵馬俑

ここが発見されたのは、20数年前（当時）のこと。「世界八大奇跡の一つ」といわれるそうだ。

最後の観光地は、華清池。ここは2700年前に発見された温泉地である。唐の玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスで有名なところ。広い敷地に美しい池と建物が点在していた。

華清池からホテルまで、約1時間。観光で疲れたのか、直ぐに寝込んでしまい、気付いたら、ホテルに到着していた。



華清池

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

十月 十六日(水) 午後一時半〜

* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」(善教寺本堂)

十月 十九日(土)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 昼席

午後三時半 法要終了

講師 広幡康祐師(呉市安浦町信楽寺)

「報恩講」(善教寺本堂)

十二月 二日(月)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 昼席

午後三時半 法要終了

講師 河野行昭師(安芸郡坂町西林寺)

* お接待当番 柏原地区



今後の法要スケジュール

ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp